

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	0195000013		
法人名	医療法人 オホーツク勤労者医療協会		
事業所名	勤医協グループホームたんぼぼ		
所在地	北見市常盤町5丁目4番7 (電話) 0157-57-7850		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成19年12月7日	評価確定日	平成20年1月28日

【情報提供票より】(19年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 18人, 非常勤 1人, 常勤換算	15.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	17,000~22,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,050 円

(4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	6	要介護2	4		
要介護3	5	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 85歳	最低	68歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	オホーツク勤医協北見病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は閑静な住宅街に立地し、近隣には農地があるなど自然豊かな環境である。開設して1年経過し、職員は常に利用者の意思を大切にしながら日々のケアサービスを実践している。また、運営者は職員の育成についても力を注いでおり、内部・外部研修に参加する機会を定期的に設け、更なる質の向上に努めている。今後も医療機関等と連携を図り、地域に溶け込んだ生活が期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価を受けるのは今回が初めてである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については管理者や計画作成担当者が作成している。今後は外部評価の結果とあわせ、会議において全職員で協議して内容を共有する予定である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	利用者家族・町内会長・地域包括支援センター職員等を構成員として運営推進会議を開催し、利用者の暮らしぶりや事業所の運営状況等について報告し協議している。今後は会議を通じて地域との更なる連携を図り、介護教室等を実施するなどの取り組みも期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	月に1度の事業所便りや金銭管理についての収支報告書の送付時に利用者の状況を家族に伝えるとともに、家族が意見・要望等を伝えやすいよう努めている。意見等を受けた場合はカンファレンス時や会議で対応方法について話し合い、改善に取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入して清掃等の地域活動に参加したり、市の農園を借りて利用者と近隣住民と一緒に作業を楽しむなど、地域との交流を深めることに努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域において暮らしていくことを大切にし、職員間で協議して「ゆったり」「のんびり」「自分らしく」という事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議やカンファレンス時に理念を確認して共有し、日々その実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して地域活動に参加したり、市から借りている農園で利用者と近隣住民が一緒に作業を楽しむなど、地域との交流が深まりつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・計画作成担当者が中心となって自己評価を作成している。また、今回の外部評価の結果について具体的な改善策を協議する予定である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	利用者家族・町内会長・地域包括支援センター職員等を構成員とし、これまでに3回運営推進会議を開催している。会議では利用者の暮らしぶりや事業所の運営状況等を報告して協議し、そこで出た意見を日々のケアサービスに活かしている。		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	介護認定の代行申請時やその他相談・報告をする際に市の担当者と連絡を取っており、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	相談・報告に留まらず、今まで以上に事業所のサービスの質の向上に向けた市との連携の取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月に1度事業所便りを発行し、利用者の暮らしぶりや健康状態等について家族に報告している。金銭管理については定期的に収支報告書を送付している。また、利用者の健康状態に変化があった場合はそのつど家族に連絡している。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	職員は日頃から利用者家族が気軽に何でも話せるような雰囲気づくりに努めている。また、意見等を受けた場合は事業所全体で対応方法について協議し、改善に努めている。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の異動は最小限に抑え、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員は定期的に内部・外部研修に参加し、部会において報告して内容を共有している。		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	北海道グループホーム連絡協議会に加盟し、研修会参加を通じて同業者と交流し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	今後も研修会回数を重ねて同業者と接する機会を多く設け、更なる質の向上に取り組むことが期待される。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	センター方式のアセスメントを活用して利用者の生活歴を把握し、本人が安心して暮らせるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は利用者と一緒に食事を作ったり農園で作業を行いながら、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	職員は利用者の行動や表情等から一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	センター方式のアセスメントシートを活用し、担当職員が作成して計画作成者がまとめて介護計画を作成している。また、作成後は会議で話し合い、共有化を図っている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	会議やカンファレンス時に介護計画の見直しを行っている。	○	今後は定期的に見直しを行い、利用者本人・家族の意見・要望等を聞きながら新たな介護計画を作成することが期待される。
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	外出時の付き添いや利用者家族の宿泊対応など、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族が希望するかかりつけ医での受診支援を行っている。また、母体法人である医療機関からも月に1度の往診があり、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針を作成している。また、訪問看護ステーションと連携を取りながら、日々の利用者の健康状態や重度化した際の対応について職員間で学習会を開催するなど、方針の共有を図っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は利用者の誇りを損ねることのない声かけや対応を心がけている。また、個人情報の取り扱いに関しては事前に利用者本人・家族に説明し、同意を得ている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は利用者のペースを大切に、散歩・買い物・調理・農作業など、一人ひとりの意思を尊重した支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の力量に応じ、食事の準備や後片付け・調理等を職員と一緒にやっている。また、会話を楽しみながら利用者と職員が同じ食卓で食事を摂っている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>毎日入浴が可能であり、利用者の体調に合わせて夜間でも入浴できるよう対応している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>職員は利用者の生活歴を踏まえて調理・洗濯物たたみ・農作業など、一人ひとりの力に応じた役割や気晴らしの支援を行っている。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩・農作業・月に1度のレクリエーションなど、日常的に外出できるよう支援している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束禁止委員会を設置して鍵をかけることの弊害を再検討している。利用者が外出しそうな様子の時には職員は声かけや見守り等で工夫し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を実施している。また、日頃から母体法人である医療機関と連携を取ったり、職員は救急救命講習を受講するなどして緊急時に備えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・血圧・体重等を毎日記録した健康管理台帳を作成し、職員間で情報を共有しながら支援している。また、栄養士が考案した献立を基に職員がメニューを作成しており、バランスのとれた食事内容となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には一人でも寛げるスペースが確保され、またトイレが複数の場所に設置されるなど、利用者が生活しやすいよう配慮している。また、ベランダからは自然光が射しこみ、利用者が居心地良く過ごせるような空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた家具や写真が持ち込まれており、本人が安心して過ごせるよう工夫している。		

 は、重点項目。